

ミャンマー日記 (2009年4～5月)

江本弘次郎

ミャンマーの水祭りと新年の休みが明けた4月23日に再度ヤンゴンに向かった。今回は5月末までの滞在予定である。サイクロンで被害を受けたヤンゴン港と内陸水運施設の復旧支援策をまとめるのが今回の目的である。

4月23日

千葉の自宅で花見を楽しみ、芝生の雑草取りを済ませ、お土産を抱え成田空港に向かう。チェックインカウンターが混んでいたのので、自動チェックイン機で手続きする。パスポートを所定のところに当て、画面表示の「確認」にタッチすると、搭乗券が出てきた。ITの素晴らしさを実感する。

両替所の為替レートをチェックし、換金レートが最も良いグリーンポートエージェンシーで換金する。ここは銀行の両替所と違って、伝票の記入なしで円札がドル紙幣に交換できる。

セキュリティチェックを出たところにJALの「さくらラウンジ」がある。上のラウンジがすいていると案内嬢が言うのでエスカレータで上がる。広々とした喫煙室があり、搭乗までゆっくりくつろぐ。

バンコクで乗り換え、予定通りヤンゴンに到着。迎いの車で前回と同じホテルにチェックインする。

4月25日

今日は土曜日だが、団内ミーティングがあるので午前中はオフィスで過ごす。ホテルに戻り、TVを点けると阪神・広島戦をやっている。3回表、4-0で勝っているではありませんか。ミャンマービールを飲みながらの観戦、HTの快勝と葛城選手の活躍に拍手を送った一日だった。

4月26日

今日は日曜日。朝飯後、涼しい時間にホテルの近くを散策する。10分ほど歩くとヤンゴン動物園の入り口に着いた。家族連れが多い。少し歩くと、新しい教会の前に来た。キリスト教徒が行き来している。向かいにイスラムのモスクがあるが、なぜか門は閉じている。ミャンマー人の90%は仏教徒なので、シュエダゴンパゴダは今頃にぎわっているであろう。

ヤンゴン中央駅に着いた。駅舎は立派だが、横にはきゅうり畑が広がっている。東京駅に比べ、閑散とした光景に、これがヤンゴンの玄関かと驚かされる。



キリスト教会



イスラムモスク



ヤンゴン中央駅



駅前のきゅうり畑

9時を過ぎ、暑くなってきたのでホテルに戻る。結婚披露宴が始まるようである。花のバスケットを持った子供に先導され、花嫁と花婿が出てきた。花婿は航海士の制服だ。ホテルでのお茶とケーキの披露宴が US\$2000 ~ 3000 ぐらいという。月給 100 ドル程度の庶民にとっては憧れの宴である。



Flower Basket Holders



New Couple

4月28日

ミヤンマ造船所のエンジニアと15年ぶりに再会した。彼らは日本で1年間、造船の研修を受けたエリートである。55歳となったいまでは生産部長と計画部長に出世していた。

生産部長は早婚で孫がいるという。しかし、ゴルフを始めたのは遅く、3年前からは土曜と日曜に腕を磨いているそうである。一方、計画部長は晩婚で7歳の娘が一人、嫁さんの実家で暮らしている。彼はシングルハンディのゴルファーで、ゴルフに熱中するあまり結婚が遅れたといい、今はヤンゴンゴルフクラブのハンディキャップ委員長を務めている。また全国各地のパゴダの建設や修理の責任者として飛び回り、インドのパゴダ修理のためムンバイに何度も出かけたという。仕事が忙しく、ゴルフのスキルは下降気味だと嘆いていた。近いうちに是非一緒にプレーしようと約束し、会食はお開きとなった。



5月1日

今日はメーデーなのでオフィスは休みである。涼しい朝のうちにダウンタウンに出かけた。映画館やDVD店の前は混雑している。人ごみを避けながら町の中心にあるスーレパゴダに向かう。中に入り参拝をするには裸足にならなければいけない。外から拝むだけにする。



スーレパゴダ

ホテルに帰りインターネットにアクセスするが繋がらない。E-メールもだめである。パゴダ参拝の手抜きのためなのか？ いろいろ試すがだめである。コンピューターに不慣れな私にとって、日本で問題が起きると息子が頼りである。しかし、ミヤンマーではお手上げである。ホテルのITマネージャーに連絡し、リセットしてもらってなんとか解決した。やれやれ！

5月3日

NHKの海外ネットワークという番組を見ていると、1年前にサイクロンで被災した現地の状況が放映された。今、私はこの地に来て、いろいろと制約があるなかで、いかなる経済協力ができるのか頭と心を悩ましているところである。

去年から連敗を喫しているウサギ軍団をギャフンと言わしめる好投巧打があれば、よい知恵が浮かぶかもしれないが、今夜も完封敗戦を喫し、「六甲おろし」はまたお預けである。

5月7日

船を修理するため、スリップウエーに上架する作業を見学した。長さ60mの船をウインチで陸に引き揚げる。このウインチは1931年製で非常に古いがまだ動く。日本ではすべて機械の操作で行われるが、ここでは、引き上げ台車に乗せるまでは人力である。炎天下での作業は大変であるが、まじめにロープを引いている作業者のそばには座って見ている奴がいた。



力を合わせ、エーンヤコーラ！



無事 上架完了

5月8日

カソン満月というお釈迦様の誕生を祝う休日である。日本では確か4月8日が誕生日とされていたと思うが、1ヶ月ずれているのは、なーんですか？... わからない。

シャツのボタンがとれたので、繕いを試みた。しかし、針に糸が通らない。老眼鏡の助けを借りて何とか通った。歳をとると、目、耳、歯が衰えると聞くが、65歳の今、目から始まった。頭とゴルフの飛距離はまだ衰えを感じていないのに、前期高齢者のレッテルを貼られ、多額の介護保険料を徴収されることにはどうも納得できない。

5月某日

チャーターしたボートに乗って、ヤンゴン河の上流にある民間の船の修理ヤードを見学した。ヤンゴン河は潮位の変化が大きく満潮と干潮では5mぐらいある。この潮位の差を利用して、満潮時に船を川岸に引っ張り寄せる。干潮になると船底が現れ、修理が始まる。多くの漁船や貨物船をこのMud Dockで修理していた。周辺には粗末な造りの村落が点在している。サイク

ロンや大きな津波に襲われたら、ひとたまりもないであろう。



5月16日

今日は土曜日、港湾局の人たちとゴルフをするため、朝早く出かける。空港近くのYCDGC(Yangon City Development Golf Club)は1990年ごろに観光客誘致を目的に作られたゴルフ場である。しかし、昔に比べると客が少ないせいも、設備やコースの状態は悪くなっていた。おまけにレンタルクラブは20年前のもので、ドライバーでナイスショットしても200ヤードぐらいしか飛ばない。結果は100を超えるスコアだったが、一緒にプレーしたシングルハンディのミャンマー人は82 - 83の安定したゴルフを披露してくれた。

夜は港湾局の招きでカラオケ付の会食となった。中華のテーブルにご馳走が並べられ宴が始まるが、隣の人には特別メニューが準備されている。おかしいなと聞いてみると彼はベジタリアンだという。欧米ではよく見かけたが、ミャンマーにもベジタリアンがいて驚いた。宗教と政治の話は避け、カラオケをデュエットしようと話がまとまった。しかし、歌えるのはミャンマーと日本の曲に限られ、二人で選んだ Beautiful Sunday の出番は来なかった。

5月某日

お土産の巻き寿司セットでうまく寿司が出来たかと秘書のエイさんに聞いた。

「すのこ」の上に海苔を置き、ごはんを乗せ、卵焼きを乗せ、ぐるりと巻いた。巻き戻すと「すのこ」にごはんがくっついて失敗したという。仕方がないので、残りは手巻きにしたという。どうすればよいかと聞くので、少し考えたあとジェスチャーを交え、少しずつずらしながら巻けばよいと教授した。次回も海苔をお土産に持ってくることを約束した。

TVで新型インフルエンザの報道をみた。神戸で患者発生というニュースに母校のユーカリ記章が映し出されていた。卒業以来ご無沙汰のユーカリをミャンマーで見られるとは夢にも思わなかった。

アウン・サン・スーチーさんが拘束されたとのニュースをインターネットで知る。詳細と真相はわからないが、また、日本とミャンマーの関係が遠のくのではないかと懸念される。

5月24日

ミヤンマ造船所の旧友からゴルフを誘われヤンゴンゴルフクラブでプレーした。午後のスタートである。昼食時からナイスショットに効果のある薬だと勧められたウイスキーを飲みながらのプレーを続ける。雨模様のなか、パットが好調で、45 - 48と満足なスコアを記録した。ゴルフ場で夕食をとりながらの団樂は楽しい。プレーと食事の代金を払うという今日あなたはゲストであるという。ゴルフ場の100周年記念のシャツと帽子とタオルのお土産つきの接待ゴルフに恐縮する。帰りにはマッサージサービスまで面倒を見てくれた。酔っ払い運転の旧友に送られホテルに帰ったのは12時近くだった。



5月31日

今週は現地調査のまとめで忙しかったが、今日は帰国日である。夕方の便でバンコクへ移動し明日帰国する。バンコク空港近くのノボテルホテルにチェックインしたのは9時半。ホテルのバーで眠り薬を飲み、おとなしくベッドイン。6月1日、朝五時に起き、ゆっくり風呂に入った後、空港に向かう。空港でランの花をお土産に買い、JALに乗る。成田には定刻の16:15に到着。40日ぶりの日本はやはり快適である。



ノボテルホテル

(つづく： 次回は7月に再訪の予定です。)